

気候変動の物理的影響に関連したリスク（4℃シナリオによる）					セグメント		
項目	事業インパクト	財務影響	顕在時期	主な対応	KGh	KST	KMT
平均気温の上昇	熱中症などの健康被害低減対策	▼▼	3年未満	設備対応などの熱中症対策の推進		○	○
自然災害の激甚化	自社工場の操業停止、サプライチェーン寸断による一時的な生産停止	▼▼	5～10年	BCP見直しによるレジリエンス向上 災害対策及び複数生産拠点での生産対応	○		

気候変動関連の機会					セグメント		
項目	事業インパクト	財務影響	顕在時期	主な対応	KGh	KST	KMT
脱炭素化への対応	エネルギー関連設備、自動化などの省エネ商品ニーズによる売上増加	▲▲	3～5年	エネルギー関連設備、自動化関連向けの省エネ商品の市場投入、販売強化	○	○	
	再生可能エネルギー利用によるコスト削減	▲	3年未満	太陽光発電設備の設置	○		
自然災害への対応	レジリエンス 製品ニーズによる売上増加	▲▲	5～10年	災害などのレジリエンス強化製品の開発拡販	○	○	

影響 ▲▲▲、▼▼▼：5～10億円未満 ▲▲、▼▼：1～5億円未満 ▲、▼：1億円未満
KGh：工作機器事業 KST：産業機械事業 KMT：金属素形材事業

シナリオ分析の前提

kitagawa のシナリオ分析においては、「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2℃より十分低く保つとともに 1.5℃に抑える努力を追求する」というパリ協定目標の達成と脱炭素社会の実現を見据え、1.5℃シナリオを中心に 2℃シナリオも検討しました。さらに、世界的に気候変動対策が十分に進展しない場合も想定して、4℃シナリオも検討しました。

1.5℃および 2℃シナリオは、温暖化抑止に向けて技術革新や規制強化が進み、社会が変化するもので、移行に伴う機会とリスクとして検討し、4℃シナリオは、十分な温暖化抑止がなされずに酷暑や激甚な暴風雨などが発生するもので、物理的影響に伴う機会とリスクとして検討しました。

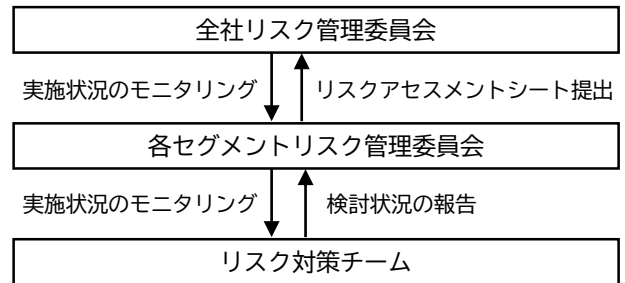
リスク管理

kitagawa は、リスク管理規程に基づき、リスク管理委員会を中核とするリスク管理体制を構築しています。

各セグメントリスク管理委員会は、気候変動に伴う外部環境分析をもとに、環境課題に係わるリスク及び機会の特定、経営・財務などへの影響および発生可能性に基づき、その重要度を評価し、対応を協議・決定しています。

また、必要に応じてリスク対策チームを設置し、リスク対策の立案・実施しています。

また、こうしたリスク管理の状況や重大なリスクの判断に関しては、原則年 1 回以上、重要度の高いリスク管理については、原則 4 ヶ月に 1 回、全社リスク管理委員会に報告しています。



指標と目標

kitagawa は、気候変動に伴うリスクと機会を評価・管理するため 2024 年 11 月に中期経営計画 2027 において指標と目標を策定しました。2025 年度実績 38.9%削減を踏まえ新たに目標を策定し 2013 年度比 40.0%削減を新たな目標としました。

指標	2027 年度目標	2025 年度実績
温室効果ガス排出量 Scope1+2（2013 年度比）	40.0%削減	38.9%削減

現在は、国内単体の Scope1+2 の温室効果ガス（主に CO₂）排出量を把握し、省エネの推進などの取り組みを進めています。太陽光発電設備（PPA）は、2025 年 6 月に計 2,284kw 設置しました。

